

スポーツ少年団 Q & A

Q 何歳から登録できるの？

A スポーツ少年団には満3歳から登録できます（登録する年の4月1日現在）。スポーツが得意な子どもだけでなく、苦手な子どもも大歓迎です。もちろん、中学生や高校生の登録も可能です。令和5（2023）年度現在、中学生以上の団員は約7万4千人で、その中には、スポーツを楽しみながら団員のリーダーとして活動し、将来の指導者を目指す人もいます。

Q どこで活動しているの？

A 主に近くの学校や公共施設で活動を行います。近隣の団体と合同で活動する場合や試合などがある際は、別の場所で活動することもあります。放課後や休日にそれらの場所でスポーツをしている団体を見かけたら、それはスポーツ少年団かもしれません。

Q どんな人が支えているの？

A 基本的に、地域の人々が関わり、それぞれの立場で、活動の運営や支援を行っています。それぞれのスポーツ少年団は、「指導者」、「役員」、「スタッフ」、保護者や地域住民からなる「育成母集団」、団員をまとめ指導者の補助的な役割も担う「リーダー（団員）」などによって支えられています。

Q どんな人が指導者になっているの？

A スポーツ少年団の「指導者」は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格を保有しています。それぞれの団には指導者が2名以上いるので団員は安全に活動することができます。地域の方々や団員の保護者などが指導にあたっており、スポーツを通じた子どもたちの成長に携わっています。

スポーツ少年団の活動への参加者募集！！

●お問い合わせ先

スポーツ少年団に関する詳しい情報については、日本スポーツ少年団ホームページをご覧ください。



日本スポーツ少年団ホームページ

スポーツ少年団

検索



JSSPO
Japan Sport Olympic Square

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘4番2号 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE

TEL 03-6910-5814（少年団課） E-mail jjsa@japan-sports.or.jp

（平日 9:30～12:00、13:00～17:30）

スポーツ少年団のご案内

スポーツは 一生のトモダチ

「スポーツ少年団」は、国内最大規模の青少年スポーツ組織です。



公益財団法人日本スポーツ協会日本スポーツ少年団

全国の子どもたちが、スポーツを通して「こころとからだの成長」を体感しています

たくさんのスポーツから種目を選べるのも魅力!!

令和5(2023)年度現在、スポーツ少年団は全国各地で約2万7千団が活動しています。その中で、60種類以上のスポーツ種目が行われており、約54万人の子どもたちが、活動を通じて多くのことを学び、経験し、成長しています。

日本スポーツ少年団概要		[令和5(2023)年度現在]	
創設	昭和37(1962)年	団員数	約54万人
団数	約2万7千団	種目	60種以上

令和4(2022)年に創設60周年を迎えた国内最大規模の青少年スポーツ組織です。


・アーチェリー	・サッカー	・ソフトバレーボール	・ノルディック	・ミニバスケットボール
・合気道	・山岳	・ソフトボール	・馬術	・ミニバレーボール
・アイスホッケー	・銃剣道	・太鼓	・バスケットボール	・野外活動
・アルペンスキー	・柔道	・卓球	・バドミントン	・野球(硬式)
・エアロビック	・少林寺拳法	・綱引	・バトントワリング	・ラグビーフットボール
・カーリング	・ショートトラックスケート	・ティーボール	・バレーボール	・リーダー会等
・カヌー	・新体操	・テニス	・ハンドボール	・陸上競技
・空手道	・水球	・ドッジボール	・フィギュアスケート	・レスリング
・器械体操	・スノーボード	・飛込み	・フェンシング	・ローイング
・弓道	・スピードスケート	・トライアスロン	・武術太極拳	・ローラースケート
・競泳	・スポーツチャンバラ	・トランポリン	・フットベースボール	・複合種目*
・ゲートボール	・相撲	・なぎなた	・ボウリング	・その他
・剣道	・セーリング	・軟式野球	・ボクシング	
・ゴルフ	・ソフトテニス	・日本拳法	・ホッケー	

*複合種目とは数種類のスポーツを併行して行ったり、季節ごとに変えたりして活動を行う形態のことです。

スポーツの喜び

「スポーツを楽しむ」ことが目標です

成長が著しい子ども時代には、まずからだを動かすことの楽しさや喜びを知ることが大切です。基礎的な運動能力や運動習慣を身につけ、生涯にわたってスポーツを楽しむ基盤を作りたいと願っています。




スポーツを通じた成長

仲間との集団行動が「こころの成長」につながります

スポーツだけでなく、野外活動や社会活動、文化・学習活動など多岐にわたる活動を通して、子どもは協調性や創造性を養い、社会のルールや思いやりのこころを学んでいきます。これらが「こころの成長」を促します。



地域とのつながり

「地域のキズナ」のなかで子どもを支援する組織です

スポーツ少年団は、指導者、役員・スタッフや地域の人々によって支えられています。スポーツを通じたネットワークの広がりが、地域内の交流を活発にし、よりよい地域づくりにも繋がっていきます。



スポーツ少年団の活動例

種目別のスポーツ活動の他に、さまざまな活動を通して、子どもたちは多くのことを学びます。



- 4月** 習慣化する運動 (1日2~3時間程度/週2、3回の練習が目安)
- 5月** 運動適性テストII
- 6月** からだを動かすことの喜びを知る (家でゲームなどをして遊ぶことが多くなりがちの現代。スポーツ少年団に入ると友達も増えて、定期的な思いっきり動き回ることの楽しさを覚えます。ココが成長!!)
- 7月** 野外活動 (キャンプやハイキングも)
- 8月** 礼儀やあいさつの大切さを学ぶ (指導者や保護者をはじめとする大人、学年の違う友達と交わることで、相手を敬う態度や感謝のこころ、あいさつの大切さを学びます。ココが成長!!)
- 9月** コミュニケーション能力や思いやりのこころを養う (リーダースクールでの学習や単位団の活動などを通して、仲間や指導者との意志疎通の取り方や、年下の団員との関わり方などを学んでいきます。ココが成長!!)
- 10月** 社会活動 (地域にある公園の掃除をするなどの奉仕活動にも積極的に)
- 11月** 運動適性テストII
- 12月** 自ら動く積極性が育つ (団体の中で生活をし、交流試合などで新しい人との出会いも増えるため、自らの意見を主張する自主性や価値観が育っていきます。ココが成長!!)
- クリスマス会**
- 1月** 遠征に出かけるなど、他の単位団との交流も!
- 2月** 文化・学習活動 (スポーツの歴史やルールなどを学ぶ機会も)
- 3月**

※全国的なイベントとして、全国スポーツ少年団大会や競技別交流大会(軟式野球、ホッケー、サッカー、剣道、バレーボール)、シニア・リーダースクール、ドイツや中国との国際交流などが開催されます。各事業の詳細は日本スポーツ少年団のホームページをご覧ください。 ※令和5(2023)年度現在